

四国森林管理局入札監視委員会審議内容

開催日及び場所	平成21年7月10日（金） 四国森林管理局会議室		
委員	渡邊法美（高知工科大学マネジメント学部教授） 横川和博（高知大学人文学部教授） 笹原克夫（高知大学農学部教授） 川合通子（高知県森と緑の会理事長） 古谷純代（高知商工会議所女性会会長）		
審議対象期間	平成21年1月1日～平成21年3月31日		
抽出案件	総件数 53 件	（備考） 治山、林道の各工事、生産及び造林の各事業請負並びにこれらの事業に係る調査・設計業務について、入札方式及び規模区分別に、落札率の高い5件以上の事案を抽出するとともに、5件以外についても委員長の判断により抽出する。	
治山工事	9 件		
林道工事	9 件		
建築等工事	6 件		
治山工事に係るコンサルタント業務	3 件		
林道工事に係るコンサルタント業務	0 件		
造林事業	18 件		
生産事業	8 件		
その他	6 件		総件数 133 件
委員からの意見・質問、それに対する回答等	意見・質問		回答
	別紙のとおり	別紙のとおり	
委員会による意見の具申又は勧告の内容	・特になし		

(別紙)

委員からの意見・質問、それに対する回答等（H21年度 第1回）

委員からの意見・質問	回 答
<p>○ 造林事業において、落札率が非常に高くなっていることについて、どのように考えるのか。</p>	<p>造林事業については、現地調査により下刈や除伐の刈払量、間伐の伐採本数、林地の傾斜度等の因子を決定して、積算基準をもとに予定価格を設定している。事業者が事業内容や過去の受注実績から人工数等を推定することにより、予定価格に近い価格で落札される場合もあると考えている。</p>
<p>○落札率が低い物件も見受けられるが、適正なコストと適正な利潤が確保されず、競争破壊が生じていないか。</p>	<p>請負事業者が作業を機械化したり、効率的な施工方法を考えた場合、国が積算した予定価格を大きく下回ることもありうる。実態に即し、積算方法も更新していきたい。</p>
<p>○落札率の低い物件については、工事内容や作業内容が粗雑であったり、現場の監督が不十分になる恐れはないか。</p>	<p>事業成績評定の取組の中で、現場代理人の活動について重点的にチェックしている。発注者側としても適切に事業が実施されるよう現場での監督強化など検討していくことが重要であると考えている。</p>
<p>○今回、造林事業において再公告が多くなっている。時期的に発注量が増加したことが要因とのことであるが、発注量が極端に変動することは好ましくないのではないか。</p>	<p>地球温暖化防止対策も含め、森林整備を着実に進めるという観点から、毎年必要な事業量と予算を確保し、計画的に発注できるよう努めているところである。</p>
<p>○国有林野事業においては、事業者の育成や確保のためにどのような取組をしているか。</p>	<p>民有林行政と連携して、緑の雇用対策を進めており、新規雇用者の研修の場として、国有林のフィールド提供なども行っている。</p>
<p>○今回通報のあった談合情報に対して、どのように対応するのか。</p>	<p>事情聴取の結果からすれば、入札を実施する選択肢もあるが、入札不参加の働きかけがあったという事案であるため、今回の入札はとりやめ、後日、再公告する考えである。</p>